

ーいわきマーチング委員会ー

朝日新聞に、いわき市制60周年を記念した 「デザインマンホールキーホルダー」の取り組みが記事に!!

日時 : 2026年9月25日 (金)

内容 : 鈴木一成代表がいわき市内にある16種類のデザインマンホールを、もっと多くの方に知ってもらい、実際に街を歩きながら探してもらえたら、という思いで企画したものです。記事では、いわき弁手ぬぐいやアロハベこ、いわきひとまち百景のこと、そして震災後に「がんばっぺ!! いわき! 日本!」を作った頃のことまで紹介していただきました。

2026年(令和8年)9月25日(金)

いわき デザインマンホールでPR

市内の印刷会社がキーホルダー販売

「路の美術館」とも言われるデザインマンホール。「フラおじさん」や「常磐もの」などいわき市のデザインマンホールのアクリルキーホルダーが同市で販売されている。市内の印刷会社が市制60周年を記念して作り、カプセルトイに入手中だ。

市役所玄関のすぐ近く。中に入っているのは4台の自動販売機がある。市内のデザインマンホール16種類のキーホルダーが販売されている。1個税込み400円で販売している。

「ほろろくん」や「汐風」など新たに8種類のデザインマンホールのキーホルダーも販売されている。いわき印刷企画センター提供

「イラストには写真とは違った魅力がある。いわきのことを知ってもらい、街中で探しながら歩いてほしい」。鈴木一成社長(57)はそう話す。同社はこれまで「いわき弁手ぬぐい」(一枚税込み1100円)や、会津郷土玩具の赤べこ(いわき市のフラガール・ハワイアン文化を一つにしたアクリルキーホルダー「アロハベこ」(一枚税込み990円)も販売している。

鈴木さんはいわき市で育ち、神奈川県の大学を出た後、都内の商品取引会社に就職した。27歳の時に市に戻り、親が経営していた会社を引き継いだ。注文された文書の印刷が主な仕事だったが、「いわきの魅力を地元や外の人たちにもっと知ってもらいたい」と業務を広げていった。

きっかけとなったのが2011年3月の東日本大震災だった。「がんばっぺ!! いわき! 日本!」のデザインを作り、

市制60周年記念「地域を元気にしたい」



朝日新聞Webサイト

URL :

<https://www.asahi.com/articles/ASV9S3QJ0V9SUGTB00HM.html>

IWAKI CITY 60TH ANNIVERSARY

いわきのマン ホール、 ガチャになり ました。

いわき市内のデザインマンホールが、
アクリルキーホルダーになってガチャに登場!!

by いわき印刷企画センター

ガチャを回しに行く →

